

学校の在り方地区検討委員会（三八地区）

【第2回】概要

日時：令和8年1月29日（木）

9：30～12：00

場所：八戸プラザホテル 別館芙蓉西

<出席者>

沼澤委員、山本委員、佐藤委員、齋藤委員、原委員、澤田委員、尾形委員、高橋委員、濱浦委員、今井委員、田畑委員、内沢委員、三橋委員、佐々木原委員、一戸委員、米内山委員（進行役）

1 開会

2 事務局説明

事務局が資料1について説明した。

3 意見交換

（1）全日制課程の学校規模・配置について

① 学校規模・配置

- 八戸駅西口周辺では児童生徒数が微増している。八戸西高校の学級数については、三戸郡の生徒数だけでなく、八戸駅西口周辺の生徒数も考慮して検討する必要がある。
- 八戸西高校は五戸町からも通いやすく、町内の生徒が最も多く進学する県立高校だが、八戸学院ひばり野西高校の開校後には生徒の進学動向も変わるかもしれない。
- 新郷村から八戸学院ひばり野西高校への進学を希望する生徒は一定数出てくると思うが、八戸西高校は村内から公共交通機関で通学できる公立高校であるため、村内の生徒からのニーズはなくならないと考える。
学級減を検討するに当たっては、学級減による志望倍率の変化も考慮する必要がある。
- 同じ高校に入学する生徒間の学力差が広がっている。学級減を検討するに当たっては、学力差の是正という観点もあるのではないか。

- 現在の学校配置の現状では、同じ学科を持つ高校の統合は難しいものと考え、統合案を提案した。例えば、八戸東高校と八戸商業高校の統合が考えられるのではないか。
- 学級減が教育の質の低下につながることや、後期実施計画で9学級減が必要になることを踏まえると、早い段階から統合について検討した方がよいのではないか。

② 学校規模・配置の効果・課題

◆ 学級減（八戸西高校・三戸郡を除く）で対応する案に関する意見

- 令和9年4月に八戸学院ひばり野西高校が開校することにより、五戸町内の中学生が当該校を選択することも考えられるため、八戸西高校・三戸郡を除くことについて再考が必要である。
- 八戸高校・八戸東高校・八戸北高校を志望する生徒は、地理的要因にかかわらずその高校を志望していると考え。学級減の対象となった場合、その高校を志望する生徒にとっては不安材料となるのではないか。
- 三戸郡の生徒の通学環境を踏まえると、八戸西高校の地理的な必要性は尊重されるべきと考える一方で、完全に学級減の対象外とすることについては違和感がある。
八戸東高校と八戸北高校は現行の第2期実施計画で学級減の対象となっていることを踏まえると、前期実施計画でその2校を学級減の対象とすることは地域の理解を得られないのではないか。また、八戸高校については他の高校にはない人財育成の体制が構築されているため、率先して学級減の対象とすべきではないと考える。
八戸西高校も学級減の候補に入れた上で、全体的なバランスを考慮した議論を行う必要があると考える。

◆ 学級減（職業教育を主とする専門学科を除く）で対応

- 普通高校が学級減の候補となっているが、教育の質の確保の観点や第2期実施計画における学級減の実績を踏まえた議論が必要である。

◆ 学級減（学科の統合）で対応

- 職業教育を主とする専門学科の場合、学級減が学科の消滅に直結することに不安を感じる。

○ 職業教育を主とする専門学科で学級減を実施する場合、コース制を採用することで学科の学びを維持できるのではないか。
→ (八戸工業高校) コース制を採用した場合、1学科相当の教員数で2学科に相当する学びに対応する必要がある。

○ 職業教育を主とする専門学科は地域の産業への貢献度が高く、安易に学級減できないと考える。コース制が難しいのであれば、少人数学級編制により学級数を維持できないか。

◆ **統合（八戸商業高校及び普通科高校）で対応**

○ 八戸商業高校の進学率が高いことを理由に同校と普通高校の統合を行うものだが、進学先の傾向が異なる高校を統合することについて慎重に考える必要がある。

○ 職業教育を主とする専門学科と普通高校では、進路や進路指導の方法等が異なることも考えられるが、八戸商業高校の生徒の進路について伺いたい。
→ (八戸商業高校) 本校の生徒の進路は6割程度が進学、4割程度が就職である。進学先は4年制大学と専門学校等で半々程度である。

○ 学級減が学科の消滅につながる場合は、安易に学級減できないと考える。
効果や課題について検証する必要があるが、職業教育を主とする専門学科と普通高校の統合も考えられるのではないか。

○ 三本木農業恵拓高校における普通科と農業科の併置による効果について伺いたい。
→ (事務局) 普通科と農業科の併置により、普通科で農業の学びを提供したり、農業科で進学に向けた学習を充実させることが可能となっている。

○ 小規模校の場合、人間関係が固定化された中で3年間過ごすことになるため、大規模校を選択する生徒が多いのではないか。
異なる学科を有する高校の統合により、多様な学びを提供できるようになるほか、様々な目標を持った生徒が集まることになり、魅力的な高校になると考える。
将来、生徒が社会に出ることを考えると、1つの高校の中で様々な生徒と関わることは、生徒にとってよい刺激になると考える。

(2) 定時制課程・通信制課程の学校配置について

○ 八戸中央高校の現状について伺いたい。

→ (八戸中央高校) 定時制課程は午前部・午後部・夜間部の三部制となっており、かつては勤労青年の学びの場として夜間部のニーズが高かったが、近年は午後部のニーズが最も高い。

通信制課程では対面のスクーリングを重視した学びを提供しており、その点が私立の広域通信制高校と異なる部分と考える。

近年は全日制高校を中退した生徒や中学校時代に不登校傾向があった生徒の入学が増加しており、生徒間の学力差も大きいですが、授業のユニバーサルデザイン化を目指しながら、生徒の目標に応じた学びを提供している。

(3) その他の意見

○ 八戸西高校は田子町内の生徒の進学先のひとつだが、部活動等の時間を確保するためには下宿等の対応が必要となるため、保護者の負担軽減について考慮する必要がある。

○ 私立高校に関する情報提供が不足している。県立高校の在り方を検討するためには、私立高校の情報も踏まえた議論が必要ではないか。

○ 高校の立地は進路選択に当たって考慮されるひとつの要素ではあるが、生徒が学びたい高校に進学できることが真に重要である。

○ 高校受験の段階で将来が決まっている生徒は少ない。3年間学んだ知識や技能を、将来の仕事に適切に生かせるよう高校での指導も必要だと考える。

○ 名久井農業高校の全国募集は今後も継続していただきたい。

○ 田子町では近隣の県立高校を選ぶ生徒が多いが、近年は私立高校の特色に魅力を感じ、私立高校を単願で受験する生徒も増加している。

検討委員会では先を見据えた議論を行う必要がある。

○ 三八地区全体で人口減少が急速に進んでいる。今回の検討委員会では2学級減の議論を行っているが、将来の更なる学級減を見据えた議論が必要と考える。

- これまで県立高校の学級減等が進められてきたが、私立高校を単願で受験する生徒が増加していることもあり、志望倍率の向上にはつながっていないと感じる。

職業教育を主とする専門学科については、後継者育成の観点から無くしてはならないと考えるが、高校での学習内容と進路選択がリンクしていない生徒も見られる状況である。高校卒業後すぐに就職しない生徒も増えている中、目的意識を持って高校を選んでもらうためには、中学生段階での進路指導が課題である。

- 県立高校に限って議論するのではなく、私立高校と比較しながら県立高校の優位性を考えることも必要である。
- 県立高校において、地域で暮らすことを教えることが重要である。

4 閉会